

第7回 東近江市市民協働推進委員会 要点まとめ

開催日時 平成 25 年 2 月 22 日 (金) 19 : 30 ~ 21 : 30

開催場所 東近江市役所 東庁舎 東 A 会議室

会議内容

ワークショップで出てきた「現状・課題」について、網羅的になっているか、抜けているところはないか確認をしていく。今回は、前回議論できなかった H ~ K、M 以降について確認を行う。

M) 活動拠点の整備 について

- ・地域コミュニティや、ボランティア、その他さまざま活動をするときの、市全体の中心となる市民センターがない。
- ・市民センター設置の要望を出しても通らないのは、市民センターについてのイメージ、機能をしっかりと議論できていないからではないか。
- ・情報の共有化、ネットワークというのは非常に重要なので、中心となる活動拠点をつくる必要がある。
- ・コミュニティセンターの下に地域での小さな拠点をたくさんつくっていくことも必要。空き家を利用したふれあいサロンなどもあるが、そういう所も活用できると思う。
- ・まちづくりネット東近江も市民の活動の拠点になるべきところだと思うが、現在、市役所の3階にあり、行きづらい。もっと敷居の低い、行政の関係者ではない普通の市民でも入りやすいような場所にする必要がある。ショッピングセンターのような場所や、市役所の中でも3階ではなく、1階とか2階に置くなど。
- ・行政と社会福祉協議会とで同じような目標に向かって取り組んでいることがたくさんあるので合同でやっていくということを検討してもいいのではないか。
- ・社会福祉協議会などは組織としての資源を結構持っているので、福祉系のいろいろな取り組みをしている団体、事業所などの情報交換の場に活用できるのではないか。
- ・行政とあまり密着しすぎてもいけないし、離れすぎてもいけない。中間のところに位置していることが望ましい。そこに市民がどう関わっていくかという距離感が非常に重要。
- ・まちづくり協議会の職員の中で担当をつくって、各種団体の悩みや課題の相談を聞いていただければと思う。
- ・多くの場合、施設というのは、社会教育施設、環境の施設、男女共同の施設など、行政の縦の理屈で造ってしまうが、市民からすると、そういうものを集約しているいろいろな機能を持たせたほうが、市民の課題とか生活につながったものになると思う。

H) 団体基盤の強化

I) 活動の環境づくり

J) 財政的支援、資金の確保

K) 人材・担い手の育成 について

- ・地域の高齢者などがボランティアをされているが、たくさんの資金が必要で、市からの補助金などがないと、なかなか活動が難しい。
- ・東近江市でも共感する人たちから寄付を募るといった取り組みが始まっている。今後は、市民同士が支え合っていくような環境つくるといことも大切だと思う。
- ・長年住んでいる人は、これ以上に何が必要なのかわからないという感覚の人も多い。そういう人も巻き込んで、新しいまちづくりを生み出していき、協働を実現するような人材を育てなければならない。
- ・社会的な生産力は年齢にかかわらず全員が持っているので、年代ごとに役割分担してボランティア登録などができれば、それぞれの力が発揮でき、人的な資源力に結び付けることができるのではないかと。
- ・今後、高齢者の方々も多くなっていく中で、いろいろなキャリアや経験を持つ人たちの力を生かせる場をどうつくるか、もしくは、その人たち自身でどうつくるかというところが課題だと思う。
- ・協働で、行政、市民、市民団体が活動を展開するときには、それを結び付けるコーディネーターという役割が必要。そして、コーディネーターとなる人は、協働をきちんと理解していなければならないし、行政、市民、団体のことについてもある程度精通していなければならない。そういうコーディネーターの育成が必要だと思う。
- ・コーディネーターという立場は市民の中にも行政の中にも必要だと思う。そういう意識を持った市民と行政の人たちが出会い、そして、共に学ぶことができるような場が頻繁にあるといいと思う。

N) 参加の仕組みづくり

O) 協働の仕組みづくり について

- ・何か政策を行うときに、行政ですべて決めてから市民に関わってもらうのではなく、目標や目的を設定するところから市民が参画できる仕組みがあるといい。
- ・市民は、市民が税金を払って行政がサービスをするという感覚があるので、合併したことでサービスが遠くなり、不満ばかりが起きている。その考え方を改めて、市民が自分で何とかしなければならないとか、みんなでやりましょうといった気運を起こしていく必要がある。
- ・協働という言葉が強引に付けることに疑問を感じる。何か事業を行う際に、知恵とか力とかお金とかをそれぞれが出し合って一枚岩になって取り組むことが、結果的に協働となるのではないかと。
- ・地域を良くするには、そこに住んでいる人が参画していくということが不可欠。
- ・今までの行政の基本計画や行政計画は、行政を主軸に考えた計画だったので、なかなか市民と共有できるものになっていなかった。共有しようとすると、明るいまちをつくりましょうといった抽象的なものになっていたのでは、私はこんなことをやっていると言えるような、まちの経営ビジョンが必要。
- ・行政から出す情報というのは綺麗な情報ばかりで、こんなことで困っているとか、こんな弱みがあるという情報は出せていない。
- ・行政は、本当は困っているのに、それを言いづらいという環境を変えていかないと、本

当に市民にとって必要な情報は出てこないように思う。

- ・協働が柱にあって、行政がすべきこと、市民がすべきこと、協働ですべきこと、もうやめるべきことなどをきちっと明らかにし、お金をどこに有効に使っていくのかということもはっきりと示していく必要がある。同時に、市の財政の状況や今後の方向性などの情報発信の仕方も考えていかなければいけない。

Q) 推進体制の整備

R) 市の組織体制の整備 について

- ・行政の若い方の中には、自分の意志で交流会などに来て、「それは我々行政にはできないから、あなたたちにやってほしい」とはっきり言ってくれるような人がいる。そういう熱い思いを持って行政の世界に入って来られた若い人に対して、市はどのように考えられているのか。そのまま伸ばそうと考えているのか。
- ・今の職員の傾向として、やる気の天井があるように感じる。やる気はあるし、自治体に入ったからには何とか地域に貢献したいと思って、使命感を持って仕事を頑張っても、失敗をするとたたかれるというような社会的な流れの中で、そうになってしまうのではないかと思う。しかし、それを突き抜けてやっている職員も実際たくさんいるので、それを奨励する方向でやっている。
- ・「私にはできません」や「やってください」と行政が弱みを見せられるような相互の関係性も重要。
- ・形だけではなく、いろいろな取り組みをしていく中で、顔が見えるところでの信頼関係をつくること、そのためには、いかに接点を多くつくっていくかということを考えていかなければならない。
- ・事業所もお客様に対して失敗はできないという中で仕事をしている。それでも失敗はするが、次で何とかして補いながら、信頼を繋いで仕事を積み重ねている。
- ・公務員の人がどんどんまちに飛び出していかなければいけないだろうし、接点をつくっていくことが評価されるとか、そういうことをしている公務員が評価されるような体制にすることも必要。
- ・資源の分配のような話を、今まで市民の見えないところでやってきたということにも問題があると思う。予算の問題とか、どう資源を配分するかということは、議会が市民に対して発信をしていかなければいけない。
- ・行政の有限性とか、行動原理とか、財源というようなことを市民とどう共有できるかということが大事。

今後の方向性について

今日議論する予定であった協働の原則について、東近江市の10の原則というような形で議論したい。あと、協働を進めていく上での方策について、まだ議論ができていないので、方策の部分も議論したいと考えている。

宿題について

第6回資料6ページにある協働のイメージやキーワードの中から、特に重要だと思うも

のを3つと、その理由を事務局（企画部まちづくり推進課）まで提出する。

その他

次回第8回目の会議は、3月27日（水）19：30から東庁舎A会議室で開催